



2023年6月9日

日本鉄道労働組合連合会

## ～連合「出前対話活動」～

# 連合・芳野会長と「男女平等参画」について意見を交わす！

JR連合は、5月25日、連合「出前対話活動」に参加し、連合本部から芳野友子会長、湯本健一総合総務財政局長、山根正幸企画局長、星野裕一国際政策局部長の訪問を受け、「ジェンダー平等（男女平等参画）」をテーマに意見交換を行った。

同活動には、JR連合の副会長・内局役員のほか、男女平等参画推進委員会（以下、「同委員会」）のメンバーが参加し、積極的な意見交換を行った。

会の冒頭、荻山市朗会長は、JR連合の現状と政策・組織両面の課題について連合出席者と共有するとともに、引き続き連合本部へJR連合との連携の強化を要請した。

続いて、同委員会の宮野勇馬事務局長（JR連合企画局長）と白壁靖子副委員長（JR西労組副執行委員長）から、JR連合がこれまで行ってきた男女平等参画推進の取り組みや課題を説明・共有した。直近では、連合の「ジェンダー平等推進計画フェーズ1」に即した「第4次男女平等参画行動目標」の策定や、年2回の「男女平等参画推進委員会」や「女性役員意見交換会」の取り組み、連合の「3.8国際女性デー中央集会」「中央女性集会」にも積極的に参画していることなども紹介した。

その後、同委員会の各委員から、「女性役員を増やすにはどうしたらいいか」や、「女性組合員が労働組合へ参画しやすくするためにはどうすればいいのか」、さらには「男性の意識を変えるにはどうしたらいいか」「効果的な研修・教育活動はどのようなものか」など率直な質問が多く出され、連合本部との間で活発な意見交換が行われた。



芳野会長からは、自身が組合役員を引き受けることになったいきさつに触れつつ、「楽しいソフトな研修も良いが、今でも関係が続いているのは、自分の意識が変わったハードな研修で知り合った仲間である」ことや、マイノリティである女性組合員の様々なコミュニティが果たす役割の大きさ、さらには「役員に本気になってほしいのであれば、『女性だから』ではなく、『あなた』が必要なのだ、というメッセージを伝えるべき」などといったご経験等に基づくアドバイスを頂いた。

同委員会の大谷清委員長（JR四国労組執行委員長）は、閉会挨拶で、本日の意見交換内容、芳野会長からのご助言を活かし、引き続き男女平等参画を推進することを誓った。

JR連合は、多様な仲間の結集が労働組合運動の活性化につながると確信し、引き続き「第4次男女平等参画行動目標」の実現にむけ、組織を挙げて取り組みを進める。

